

Yumeken

秋

2011 Vol.621

◆特集○話題の焦点

工場見学がおもしろい!

◆夢インタビュー

「希望の連鎖」の実現に向けて、学習支援の全国ネットワークを設立

◆第17回夢けんせつフォトコンテスト

受賞作品紹介

◆おじゃまします

株式会社 奥田工務店



工場見学がおもしろい!

今、工場見学がちょっとしたブームになっています。

身近にある製品がどのような工程を経て造られているのを知りだけでなく、長年培われてきた優れた技術について楽しく学んだり、企業の姿勢やものづくりへのこだわりに触れられるのが大きな魅力です。

今回は滋賀県内で工場見学ができる「独立行政法人国立印刷局 彦根工場」と「麒麟ビール株式会社 滋賀工場」をレポートしました。



展示資料室には紙幣に関するさまざまな資料が展示されています。



ダブルオフセットサンメル凹版印刷機という特殊な印刷機で、紙幣が印刷されるようすを見学することができます。



20枚の紙幣が印刷されたシートは記番号を印刷した後、検査を経て断裁します。

紙幣は造幣局で印刷されていると思われている人が多いようですが、日本銀行券紙幣や証券類郵便切手、印紙、

見学者は正門で受付を済ませた後、資料展示室で彦根工場の概要や国立印刷局の業務内容、紙幣の製造工程などについて担当職員の説明を聴き、紹介映像を観賞します。

紙幣は造幣局で印刷されていると思われている人が多いようですが、日本銀行券紙幣や証券類郵便切手、印紙、

独立行政法人国立印刷局 彦根工場

〒522-0027 滋賀県彦根市東沼波町1157-1
 問い合わせ先：総務グループ
 TEL 0749-27-6004
 (受付時間8:30~16:30)
 見学可能日：火、木曜
 (10:00~、13:30~の1日2回)
 所要時間 約90分
 *希望日の2カ月前から2週間前までに予約が必要です。
<http://www.npb.go.jp/>



JR彦根駅前にある「おさつ街道」の表示板

西日本唯一の紙幣印刷工場

JR彦根駅から、その名も「おさつ街道」と呼ばれる道路を彦根方面にしばらく行くと国立印刷局彦根工場があります。

国立印刷局には、日本銀行券(紙幣)や証券類の用紙を製造する工場を含めて、全国に7つの工場があり、その中の一つ彦根工場は、昭和19年に開設された紙幣の印刷工場です。当初は、現在の彦根市役所がある場所に工場がありましたが、昭和40年に現在地に移転しました。現在は、西日本



庭の一角には蔵も残されている

北国街道に面した母屋側の入り口

酒蔵を修復再生した能舞館

湖国 街かど ウォッチング

新しく便利になった街や施設をレポートするコーナーです。

今重屋敷 能舞館

1/2スケールの本格的な能舞台



能楽の魅力発信する施設「今重屋敷 能舞館」は、北国街道沿いにある伝統的町家を修復再生して、今年7月にオープンしました。
 長浜城主となった羽柴秀吉の命を受け長浜の自治を担った「長浜町年寄十人衆」の1人今村家は、江戸時代には両替屋を営む傍ら、酒造りを家業としていました。

修復された2棟の酒蔵の内部には樽をふんだんに使った内装が施され、2分の1のスケールの能舞台のほか、能面や能装束、能楽器等の展示コーナーが設けられています。

町家の借上げや改修等の活性化事業を行っている(株)新長浜計画が、「戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金」を活用して、地域の文化と芸術を発信する拠点施設として整備を進めてきました。

能楽がテーマとして選ばれたのは、秀吉の時代に始まった「長浜曳山祭り」に代表されるように古くから謡曲や歌舞伎などの伝統が長浜の地に根付いていたこと、江戸時代に天下一の能面打ちと讃えられた井関家が初代から三代まで長浜市七条町に居住したこと、能装束に用いられる上質の絹糸の産地であったことなど、湖北長浜の地が能と浅からぬ縁を持っていたことによるものです。

黒壁スクエアからも近く、散策の途中で気軽に立ち寄って、能の歴史や魅力にふれるだけでなく、酒米を蒸した大



酒米を蒸した甕と古い徳利

きな甕(こしき)や煙突、古い徳利などのほか、大きな蔵のある庭や通り土間のある母屋など、往時の暮らしがうかがえるのも楽しみです。

能舞館では、長浜市在住の能楽師による仕舞や謡の体験講座や公演、能を楽しむための講座なども随時開かれています。

長浜市元浜町23番17号
 TEL 0749-501272
 10時~17時 休館日/水曜日
 入館料/大人500円、中高生200円、小学生以下無料



能装束や能面などが展示された館内



CONTENTS

湖国街かどウォッチング	2
今重屋敷 能舞館	2
特集・話題の焦点	3
工場見学がおもしろい!	3
夢インタビュー	6
「希望の連鎖」の実現に向けて、学習支援の全国ネットワークを設立 全国学童会ネットワーク代表 犬飼公一さん	6
ビジネス最前線	7
高島晒協業組合	7
第17回 夢けんせつフォトコンテスト	8
受賞作品紹介	8
おじゃまします	14
株式会社奥田工務店	14
近江建築探訪	16
長栄座	16
「仕事の達人遊びの達人」	17
50歳を過ぎて知った音楽の楽しさ	17
吉田厚	17
バスルとクイズ	18
近江うまいもの紀行	18
夢けんひるば	18
読者の声	19
表紙写真	
「綿引きじゃありません。ストレッチです!」	
田中 一成	
「山寺の山門とケヤキ」	
山田 祐市	

旅券(パスポート)、官報などを製造するのは国立印刷局で、硬貨を製造している造幣局とは別の組織になっています。

1枚の紙幣に込められた偽造防止のための高度な技術

なんとと言っても偽造防止のためにさまざまな技術が取り入れられていることに興味をひかれます。

「白すかし」と「黒すかし」を組み合わせた精巧なすかし模様もその一つで、すかしの部分を厚く塗く「黒すかし」は、法律によって国立印刷局だけが製造することを許されています。また、紙幣の角度を変えて見ると画像の色や模様に変化する「ホログラム」は、平成16年から発行されている現在の二万円券と五千円券に採用されています。

そのほか、インキを盛り上げて印刷することで紙幣独特のざらざらとした手触りを作る「深凹版印刷」、紫外線を当てると発光する「特殊発光インキ」、傾けると模様や色が浮かぶ「潜像模様」や「パールインキ」、通常の複写技術では「コピーできない」マイクロ文字「など、一枚の紙幣に世界最高水準の日本の紙幣印刷技術が盛り込まれています。

そして、複雑で精密な印刷を可能にするのが、国立印刷局が独自に開発した「ダブルオフセットザンメル凹版印刷機」という印刷機です。

インキも工場内で作られた特殊な色を用いられていて、二万円券、五千円券、千円券はすべて表は13色(二万円券と五千円券のホログラムは除く)、裏は7色の刷り色が使われています。微妙な色合いや複雑な模様を印刷するために、印刷機の調整は毎日慎重に行われています。

1億円の重さを体験

お話や映像、展示資料などで、紙幣に取り入れられているさまざまな技術について学んだ後、実際に紙幣が印刷されている作業場を建物の2階から窓越しに見学します。

印刷工程は、20枚の紙幣が連なったシート(大判)を、まず、裏面から、次に表面を印刷します。別の機械でホログラムを貼り付けられた後、さらに別の印刷機でアルファベットと数字を組み合わせた記番号(通し番号)を印刷します。

この記番号には、数字と間違いないアルファベットの「1」「A」「I」と「O」「A」が使われています。最大29億6000万通りの組み合わせができますが、印刷枚数がそれを上回る場合はインキの色を変えています。平成16年11月から発行されている現在の二万円券、五千円券、千円券は、黒色の記番号が印刷されていますが、一万円券と千円券は記番号をすべて使い切ったため、平成23年7月からは褐色の記番号になっています。

見学することはできませんが、この20枚の紙幣が印刷された大判と呼ばれるシートを検査した後、決められたサイズに断裁し、さらに機械を通す検査を行うことで紙幣が完成します。

製造量は年度によって変動しますが、平成23年度は全国にある国立印刷局の工場で年間33億枚の紙幣が印刷される予定です。財務省が毎年4月に決定する年間の紙幣製造枚数に基づいて計画生産されています。紙幣の寿命は千円券が1〜2年、二万円券で4〜5年ほどといわれています。

約90分の見学で、紙幣に関するさまざまな知識を興味深く学べるようになっていきます。資料展示室には、1億円分の重さを体験できるコーナーも設けられていて、およそ10キログラムある1億円の重みを確かめるといって、めったにない体験もできます。

映像を使って醸造や缶詰工程を紹介

ビールづくりには、まず発芽させた麦芽に水を加えて釜で煮込みでんぷん質を糖分に分解し「もろみ」をつくります。この「もろみ」をろ過してできた麦汁にホップを加えて香りと苦みを引き出します。冷却した麦汁に酵母を加えて低温で発酵させると、糖がアルコールと炭酸ガスに分解されて若ビールとなります。これを貯蔵タンクの中で1〜2カ月熟成させた後、酵母やタンパク質をろ過することにより琥珀色のビールができあがります。

見学ツアーでは、発酵・貯蔵・ろ過などについて3D映像を用いた説明を聴くほか、糖分がアルコールに分解される前の麦汁を試飲して、ビール独特の苦みとほのかな甘みがあることを確かめます。

パッケージング工程は大きなスクリーンを使った映像で紹介されます。高圧水で洗浄した缶にビールが詰められると、巻き締め機によって接着剤などを使わずに瞬時に蓋が閉じられます。1分間に2000本ものビールが缶に詰められていきます。

大人も子どもも楽しめる試飲タイム

見学の最後は、お楽しみみの試飲タイムになります。



CGなどを使ってわかりやすくビールづくりについて説明が行われます。



映像を使ってパッケージング工程の説明が行われます。



見学スタート



醸造室仕込釜の見学



見学の最後はお楽しみみのできたてビールの試飲。おいしいビールの注ぎ方などのレクチャーもあります。



ビールの原材料を手にとり、香りや味を確かめることもできます。



大きな仕込釜が並ぶ醸造室。見えているのは釜の一部です。

若ビールを貯蔵する巨大なタンク



ビール原料の味や香りを体験

全国に9カ所ある麒麟ビールの工場の一つ、滋賀工場は、昭和49年から製造を開始しました。敷地面積は約36万8000㎡、甲子園球場10個分の広大な敷地に醸造棟や貯蔵タンク、パッケージング作業を行う工場、ペットボトル入り清涼飲料を製造する工場、排水処理施設などが配置され、10種類以上のビールや発泡酒などの酒類と清涼飲料が製造されています。

滋賀工場では火曜日から土曜日まで、1日5回の見学ツアーを実施しています。工場見学はまず、工場の概要や環境への取り組みなどを紹介する映像を観賞した後、ブルワリーツアーガイドの案内で見学コースをまわります。

ビールの原材料について紹介するコーナーでは、「二条大麦やホップなどの主原料と米やスターチなどの副原料の実物を手に取って確かめることができます。実際に麦芽を食べて噛み締めるうちに甘みが感じられるようになるのを体験したり、ホップの花(毬花)を割って香りを感じたりします。

続いて、大きな仕込釜のある醸造設備をガラス越しに見学します。現在、滋賀工場では生産されていない「一番搾りスタウト」という黒ビールやお馴染みの「麒麟一番搾り生ビール」、ノンアルコールビールの「麒麟フリー」、麒麟ビバレッジ社の清涼飲料などの試飲を楽しむだけでなく、ビールの美味しい注ぎ方のレクチャーを受けたり、ラベルの麒麟の絵に隠された秘密なども紹介されます。大人はもちろん、お酒を飲めない人も、子どもたちも楽しめるように工夫されています。

お土産のコーナーには、ビールのほかに、醸造の過程でできたビール酵母を利用した健康食品や材料の一つにビールを使ったお菓子、ロコモイクの入ったグッズなど、工場できか買えない商品もいろいろあつて、これも楽しみの一つになります。

滋賀工場では早くから資源のリサイクルや環境保全活動に取り組んできました。ビールの仕込粕(かす)を家畜の飼料や土壌改良剤に再利用したり、容器の軽量化などの取り組みを紹介するコーナーもあります。おいしいビールをつくるためのこだわりだけでなく、環境への取り組みに注目しながら、工場を訪れてみるのも興味深いかもしれません。

2004年から、工場を使う水の源となる多賀町の高取山で植林活動を行ってきた滋賀工場では、そういった取り組みを紹介するために、植林や木工クラフト体験ができる「エコブルワリーツアー」を企画したり、通常の工場見学だけでなく、環境への取り組み、安全衛生などをテーマにした見学やセミナーにも対応しています。

また、醸造を担当するスタッフがビールづくりのこだわりやビールの奥深い魅力について語る「工場技術員ツアー」のほか、クリスマスイベント、春休みや夏休みの親子連れを対象にしたイベントなども開催されています。

麒麟ビール株式会社 滋賀工場
〒522-0342滋賀県犬上郡多賀町飯満寺1600
問い合わせ先: TEL0749-48-2810
(受付時間9:00~17:00)
見学可能日: 定休日(日曜、月曜、年末年始)を除く毎日
10:00~、10:30~、13:30~、14:30~、15:00~
所要時間 約70分
*前日までに電話で予約が必要です。
<麒麟ビールホームページ>
<http://www.kirin.co.jp>
<麒麟ビールホームページの滋賀工場トップページ>
<http://www.kirin.co.jp/about/brewery/factory/signa/index.html>



若者、女性向けの おしゃれな「ステテコ」がブームに



高島晒協業組合
高島市新旭町旭1411
0740-25-3515
http://www.tacca.jp



節電ビズをアピールするのほり

営業管理本部部長の一井正治さん

高島ちぢみ(高島クレープ)の歴史は古く、江戸時代から農家の副業として生産されてきました。よこ糸に強い撚り(より)をかけた糸を使うことで、布の表面に独特の「しぼ」と呼ばれるしわが出るのが特徴です。

このしぼがあることで、肌に直接触れる面積が小さくなってさらりとした着心地が生まれます。また風を通し吸水性にも優れているため、下着に用いると高温多湿の日本の夏を涼しく過ごすことができます。

昭和29年に設立された高島晒協業組合は、市内で生産された生地を漂白、染色、プリント加工と販売を行ってきましたが、高島ちぢみは1980年代のピークを境に需要が減り、協会の職員や市内の生産者は危機感を強めていました。

一昔前までは、夏になると男性はズボンや着物の下にステテコをはくのが普通でしたが、若者世代に敬遠されるようになり、さらに安い外国製品が大量に出まわるようになったことも追い打ちをかけた。

年配のユーザーだけを対象にしていたのでは、ますます需要が減ると考えた協会では、6年ほど前から若者をターゲットにした商品開発に取り組み、色や柄、デザインをおしゃれに一新して、家の外でもはけるステテコを売り出しました。

カラフルなステテコが、口コミや通販などで徐々に若い消費者の注目を集めるようになり、そこに昨年の猛暑、今年の節電モードが追い風となり、若者向けのステテコや下着が「節電ビズ」として注



高島ちぢみのキャミソールとフレアパンツ(写真左)
大ヒットしたレディースステテコ(写真右)

目されるようになりました。

「今年は例年の3〜3.5倍の注文があり、すでに来年の夏に向けた商品企画がメーカーや量販店との間で進んでいます」と言う営業管理本部部長の一井正治さん。

一方、「女性向けのステテコはないのか」という問い合わせが以前から時々あったそうですが、ある女性警察官から「父のステテコを借りて交通整理をしたところ、汗でべとつかずとても快適だった。女性用のステテコをぜひ作ってほしい」という電話を受けたことをきっかけに、組合の女性職員が花柄の生地を試作して販売したところ、たちまち大好評になり、生産が追いつかないほどのヒット商品となりました。



「高島ちぢみ」のネームタグ

新商品「手染めのスカーフ」

「二度、高島ちぢみのステテコや下着を体験した人は、その快適さを文字通り肌で感じる事ができる」と一井さん。ただ、「ステテコのヒットで減少の二途をたどってきた売上も上向きに転じたが、一過性のブームで終わらせないためには、高い品質を維持し、消費者のニーズを捉えた魅力のある商品開発が不可欠になる。さらにブランドイメージの定着も必要になる」と指摘します。

現在、同組合では特許庁の「地域団体商標(地域ブランド)」に登録を申請中で、商標が認められた後は、知名度と付加価値のある商品づくりを武器に、安い製品などとの差別化が一層図れるようになることを期待を寄せています。

「希望の連鎖」の実現に向けて、 学習支援の全国ネットワークを設立



大津市内の公民館で行われる「中3学習会」。個々のレベルに合わせたマンツーマンの指導を基本にしている。

長引く不況の影響で生活保護受給世帯数が過去最高を記録する中、生活保護受給世帯で育った子供が成人後、再び生活保護を受けることになるという「貧困の連鎖」が大きな社会問題となっています。

この貧困の連鎖を解決する一助になりたいと、生活保護世帯や一人親世帯の子どもたちへの学習支援活動に取り組んでいるのが、犬飼公一さんを代表とする大学生のグループです。

各地で同様の活動を行っているグループに呼びかけて、全国学習会ネットワークを立ち上げた犬飼さんにお話をうかがいました。

学習支援活動を始めたきっかけは?

亡くなった祖父が地域の子どもや障害のある人を対象とした社会貢献活動に熱心に取り組み姿を見て、大学に入ったら何かボランティア活動をしたかと思っていました。入学して間もなく、生活保護世帯の子どもの高校進学率が低いことをニュースで知り、大津市役所に何か支援できることはないかと相談に行ったらのがきっかけです。

滋賀医科大学の中で賛同してくれる仲間を募ってサークル「Atlas」を立ち上げ、その1年前から京都で始まっていた学習支援をモデルに、「中3学習会」をスタートしました。

保護観察中の少年の見守りなどの活動を展開する全国組織の一つ、龍谷大学の「瀬田BBS」にも協力を呼びかけて、大津市内の公民館で、当初は週1回だった学習会を、現在週2回実施しています。

学習指導はどのように行われていますか?

マンツーマンで、個々の子どものレベルに合わせた指導が基本です。何のために進学するのかわからない、自分の将来に希望や目標を持っていない子どもが多いんです。ただ勉強を教えるだけでなく、子どもたちに寄り添い、大人より子どもたちに近い信頼できる存在として、悩みを聞いて、将来について話したりすることを大切にしています。

これまでの活動を通して印象に残っていることは?

スタートした年に教えた生徒の一人は、なかなかコミュニケーションが取れなかったのですが、学習会には休まず通ってきてくれました。中学ではずっと0点しか取ったことがなかったのに、ある日10点取れたと報告してくれた時はすごく



犬飼 公一さん
〇いぬかい こういち
全国学習会ネットワーク代表

滋賀医科大学5年生。学習支援団体「Atlas」代表。全国学習会ネットワーク代表。設立から4年間で延べ600人超の中学生に学習支援を行う。行政書士資格保有。学習支援事業における行政と大学生の連携に取り組んでいる。

れしかったですね。子どもたちのほとんどは勉強の仕方を知らないだけなんです。かけ算や割り算から教えるなければいけない子どももいますが、勉強の仕方がわかってくると遅れを取り戻すことができます。その生徒は志望する高校に入学して、今年卒業して就職しました。

学習会で目標に向かってがんばることを経験すると、高校に進学してから、困難にぶつかってもあきらめないでがんばるようになり、人生を肯定的に捉えることができるようになり、自分の力で道を拓き、貧困の連鎖を断ち切れるようになってほしいというのが私たちの願いです。

活動を継続していくうえで、解決しなければいけない課題はありますか。

通常、他の地域で行われている学習支援は、行政が企画して年間予算を付けてNPOに運営を委託するという形が多いのですが、私たちの取り組みの特徴は、行政の予算を使わず、ほとんど経費をかけるに運営しているところにあります。そのため、これを維持していくには、活動の趣旨に賛同し、熱意を持って取り組んでくれる多くの学生の協力が不可欠です。

今、守山市も立ち上げの準備をしています。支援できる大学生は限られています。県内の他の地域にも広げていきたいのですが、そのためにはリーダーとなる人材を育てていかなければなりません。

この活動を継続していくためにも、福祉と教育の連携を図り、大学生のマンパワーをうまく活用

用していくシステムづくりが必要です。そのために、「NPO」全国学習会ネットワークを立ち上げたのです。

これまでも新聞の取材を受けたり、全国のシンポジウムなどに出かけて行って話をしてきました。できるだけ多くの人に私たちの取り組みを知ってもらって、活動に参加してほしいからです。

同じような活動をしている全国の学習会と交流して情報交換したり、新規学習会の立ち上げを支援するためにNPOを設立しました。学習支援を受けて高校や大学に進学した子どもたちが、今度はボランティアとして子どもたちを支援するという「希望の連鎖」を作っていくことを、これからの大きな目標に掲げています。

犬飼さんご自身の今後の目標、将来の夢を聞かせていただけますか。

学習会に通ってくる子どもは生活保護世帯の中でもまだ上のレベル、親にも理解があるのですが、それすら関心のない家庭の、最底辺の子どもたちをどう支援するかが課題です。

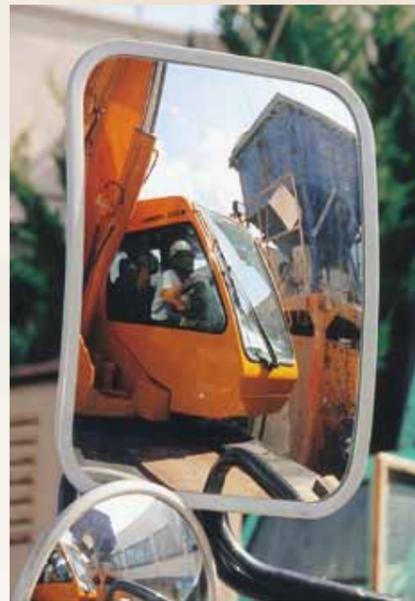
将来、医師として働きながら、その知識や経験を活かして、こういった最底辺の子どもたちの支援を行い、虐待や非行、発達障害などの問題に取り組んでいきたいと考えています。



滋賀労働局職業安全部長賞
「息を合わせて」 上田 利明 [滋賀県]
 機械を運転する人の真剣な姿が目を引きまします。普通では写せない写真です。
 社団法人滋賀県土木施工管理技士会長賞
「明かりの先にまぢが見える」 宇田 毅 [滋賀県]
 トンネルの中での大変むずかしい露出ですがよく考え撮られているのがよく分かります。



建設業労働災害防止協会滋賀県支部長賞
「集中」 椋代 収 [大阪府]
 命綱一本に支えられ作業する人を間近で写した事がよかったです。又、立ち上る埃が一層臨場感を出しています。



優秀賞



夜の作業打ち合わせの様子でしょうか、真剣な様子が伝わります。
 独立行政法人勤労者退職金共済機構建退共滋賀県支部長賞
「臨場」 田中 貴之 [大阪府]

PHOTO CONTEST 入賞作品 第17回
 ●審査員/滋賀県写真連盟 会長:永繁 昭 並びに主催者

第一部
 「建設業にはたらく人々」
 第二部
 「滋賀の建造・構造物(社寺仏閣・城)」

- 主催/ (社) 滋賀県建設業協会
- 共催/ (株) 滋賀産業新聞社
- 後援/ 滋賀県、滋賀労働局、(独) 雇用・能力開発機構滋賀センター、西日本建設業保証(株) 滋賀支店、(社) 滋賀県建設産業団体連合会、滋賀県建設業協同組合、(社) 滋賀県土木施工管理技士会、建設業労働災害防止協会滋賀県支部、(独) 勤労者退職金共済機構建退共滋賀県支部、びわ湖放送(株)
- 協賛/ 滋賀県写真連盟、滋賀県カメラ材料商組合、株式会社 トミカラー

	応募者数	応募点数	第一部	第二部
総数	218人	373点	219点	154点
内訳	県内	113人	189点	76点
	県外	105人	184点	143点

- 10月15日(土)・16日(日) おうみしごと体験フェスタ 滋賀県立高等技術専門学校(テクノカレッジ草津) (滋賀県草津市青地町1093番地)
- 10月29日(土) ポリテックビジョン滋賀(ものづくり、人づくり) 滋賀職業能力開発短期大学校[ポリテクカレッジ滋賀] (滋賀県近江八幡市古川町1414)
- 11月18日(金) 建設業雇用改善推進大会 コンベンションホール「淡海」 大津プリンスホテル[淡海ロビー] (滋賀県大津市におの浜4-7-7)
- 日程未定(平成24年1月頃予定) 短期大学学生発表会 滋賀職業能力開発短期大学校[ポリテクカレッジ滋賀] (滋賀県近江八幡市古川町1414)

入賞作品展のお知らせ
 入場無料

審査後記
 滋賀県写真連盟会長 永繁 昭
 作者の熱い思いが見る者にとって伝わって来るような感じがします。非常に難しい状況の中で写された作品があり、技術の高さや写真を撮るうえでの心構えが見られます。

第一部「建設業にはたらく人々」
 (デジカメ・カメラ用)

滋賀県知事賞
 社団法人滋賀県建設業協会会長賞
 滋賀県写真連盟会長賞

「綱引きじゃありません。ストレッチです！」
 田中 一成 [滋賀県]



評
 朝の始業風景を高所より写された作品で、構図もよく、チームのメンバーの皆さんのエネルギーを感じます。

入選



三國 清 [福井県]
「工夫を守る」



藤波 喜競 [埼玉県]
「護岸工事をする人たち」



特別賞

BBCびわ湖放送株式会社賞
「安全第一」
 増田 恵 [長野県]



石森 文夫 [福島県]
「ひんぎき」

第二部「滋賀の建造・構造物(社寺仏閣・城)」

(デジカメ・カメラ可)

滋賀県知事賞 社団法人滋賀県建設業協会会長賞
滋賀県写真連盟会長賞

「山寺の山門とケヤキ」

山田 祐市 [滋賀県] <撮影場所/余呉町>

グランプリ



評

櫛の古木と山門が大変力強い作品です。古木の質感、山門と石段の様子全体をうまくまとめられた作品です。

優秀賞



株式会社滋賀産業新聞社長賞

「絶景の山門」片山 和澄 [神奈川県] <撮影場所/東近江市 永源寺>

重量感のある山門と盛秋の町の作品。二人の人物を入れた事、雨の日でしっかりと落ち着いた作品になりました。

西日本建設業保証株式会社滋賀支店長賞
「静寂の里寺」木下 正治 [京都府] <撮影場所/大津市葛川明王院>
雪中で普通なら撮らない町にカメラを出した事が成功の第一でしょう。又構図もまとまっています。



「ダム工事」

岡本 聖 [京都府]



「街を守る」

齊藤 芳正 [神奈川県]



「大屋根改築」

渡辺 正 [滋賀県]

「男性には負けないぞ」
川口幾世至 [岡山県]



「オーケー オーケー調整OK」
小ノ島博善 [大阪府]



「慎重に」

南井さつき [京都府]



「チームワークで安全確保」

水島 脩行 [千葉県]

奨励賞

「橋脚の上で」
大学 肇 [長野県]



「まずは安全確保から」
平田 淳 [東京都]



「琵琶湖で働く重機」
山下 峰人 [滋賀県]



「剪定は慎重に
美知メセナ奉仕作業」
伊富貴正人 [滋賀県]

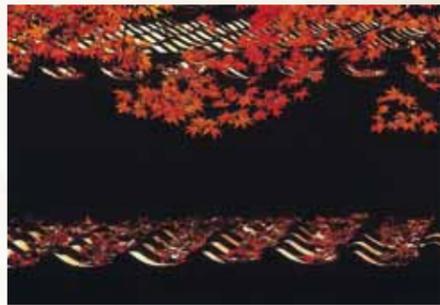


「炎のわざ師」
藤田 吉廣 [滋賀県]





「どあ〜ん」
林 正宏 [滋賀県] <撮影場所/愛荘町>



「秋深まる」
谷崎 進 [滋賀県] <撮影場所/教林坊>



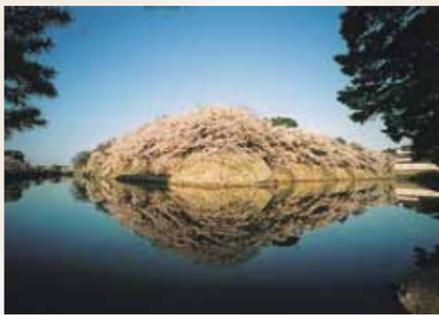
「春の彦根城」
川村 恒雄 [滋賀県] <撮影場所/彦根城>



滋賀県建設業協同組合理事長賞
「本殿に向う」武智 なおみ [神奈川県] <撮影場所/日吉大社>
雨の日の神社、巫女さんがお参りするのこんな町でも行事があるのかと感じさせます。



社団法人 滋賀県建設産業団体連合会長賞
「盛夏の宵」岡田 健司 [滋賀県] <撮影場所/多賀大社>
薄暮のむずかしい町にシャッターを押し露出も適正で祭りのにぎわいが伝わります。



「咲き誇る」
尾田 昌之 [滋賀県]
<撮影場所/彦根城>



「色彩浪漫」
松本 恭博 [滋賀県]
<撮影場所/埋木の倉付近にて>



「雪の朝」
田中 博文 [滋賀県]
<撮影場所/大津坂本飯室谷>



特別賞
BBCびわ湖放送株式会社賞
「古寺の茶席」
鈴木 栄子 [滋賀県]
<撮影場所/水口町 大池寺>



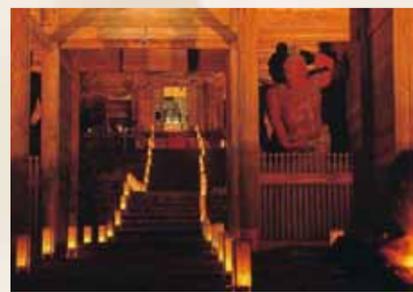
入選
「花の寺」
田中 恭平 [滋賀県]
<撮影場所/米原市 蓮華寺>

奨励賞

「雪化粧」
中西 博樹 [滋賀県]
<撮影場所/金剛輪寺>



「灯路に照らされて」
樋口 浩司 [滋賀県]
<撮影場所/金勝寺>



「緑に映える」
北川 孝 [滋賀県]
<撮影場所/甲良町 西明寺>



「三井寺の頂から」
太田 年彦 [大阪府]
<撮影場所/大津市 三井寺>



「桜の長浜城」
松浦 義教 [和歌山県]
<撮影場所/滋賀県長浜城>



「中秋のライトアップ」
田中 延子 [滋賀県]
<撮影場所/石山寺境内>



「夜桜見物」
樽松 貞美 [愛知県]
<撮影場所/彦根市>

「錦上花を添える」
寺尾 幹男 [滋賀県]
<撮影場所/愛荘町>



人と技術を大切に、 夢を描ける建設業を目指して

株式会社奥田工務店

滋賀県蒲生郡日野町

代表取締役社長 古谷 孝

孝

経営の健全化に努め、介護事業や農業ビジネスにも参入

「従業員の物心両面の幸福を追求すること」「建設業という事業を通じて社会の繁栄に貢献すること」を事業の目的に掲げる奥田工務店は、建設業をベースに総合的な事業展開で飛躍的な成長を続けてきました。

「企業としてまず目指すことは、健全な経営に努め納税義務を果たすことにある」と古谷孝社長が言うように、社員全員にて徹底した原価管理を行い、無駄を省き効率的な工事を行うことで、より良い完成物を低価格で提供することを目指しています。

そして、しっかりとした本業のノウハウを得て別法人にて、介護事業と農業ビジネスにも参入しています。

ご家族を介護した経験から、介護事業の必要性・重要性を実感した奥田秀会長が、平成9年に社会福祉法人を設立して特別養護老人ホームを開設、介護施設の運営やデイサービス事業などを行ってきました。現在は介護リフォームのほか介護用品のレンタルや販売なども手掛けています。

また、3年前に土木部農業部門から農業生産

野町の社会福祉協議会に寄附しています。

男性社員の育児休暇制度をはじめ、学校行事参加のための休暇制度を創設、独自の子育て支援策として、一人目と二人目にはそれぞれ5000円、三人目からは15000円の子ども手当を支給するなど、仕事と子育てが両立できる職場を実現する取り組みに対して、平成22年には県内の建設業で初めて、滋賀県労働局から「ワークライフバランス推進企業」の認証が贈られました。

その他、地域清掃活動（エコフオスター）や自社内で廃材から炭を作って有効活用する取り組みなど、地域貢献や環境保全などに配慮した経営が評価されて、滋賀経済同友会の第6回滋賀CSR経営準

大賞に選ばれました。

好調な業績を続けていることに対して、「特別な秘策があるわけではなく、自分の仕事に誇りを持ち、何事にも一生懸命取り組み、当たり前

法人「奥田ファーム」が独立、休耕地を利用した稲作とトマトのハウス栽培を中心に事業を展開しています。今後は少しずつ規模を拡大しながら、耕作放棄地の有効利用を推進していく予定です。

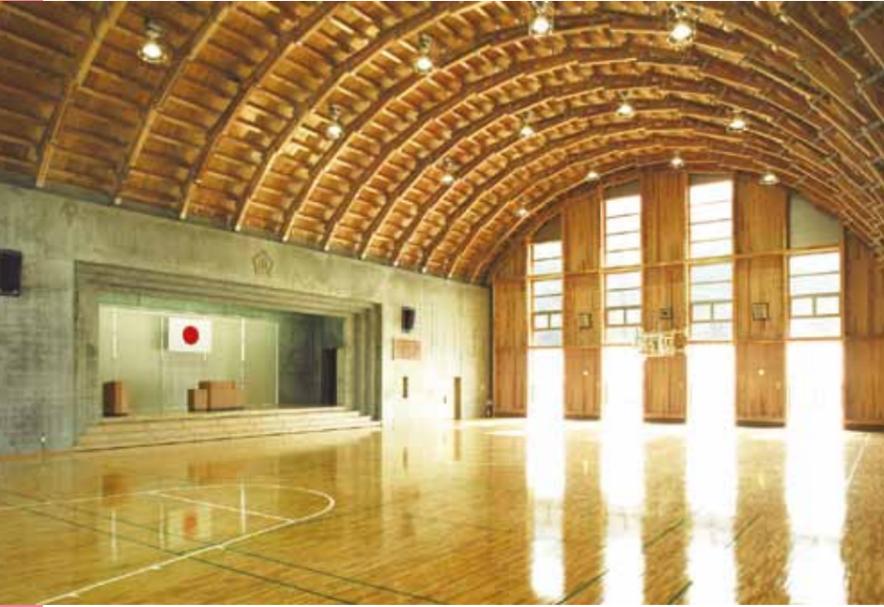
思いやりの心を育む ユニークな社員教育

「心・愛・夢」を経営理念として掲げる同社では、大切なことは、「心考え方」であるとして、社員教育にも熱心に取り組んできました。

その中の一つ「心を高める学習」は、社長以下全社員が介護施設で定期的に奉仕活動を行うというユニークなもの。日誌には、「人生の先輩であるお年寄りと接することで、思いやりの大切さを学んだ」「離れて暮らす祖父母を思い出して、優しく接することができた」といった感想が書き込まれています。

その他にも全社員を対象に縦割りのグループを作り、それぞれにリーダーを決めて月1回、グループ活動を行っています。地域貢献の一環として、毎年開催してきた「青空夏祭り」では、グループごとに模擬店や手作りコーナーなどを準備して、市民と交流を図り、収益金は日

のことをコツコツとやることに尽きる」と古谷社長。「建設業を取り巻く環境は厳しいけれども、どの業種のどんな仕事も、楽にできるものはないはず。建設業がもっと夢の持てる仕事になるよう、人と技術を大切に、少しでも楽しく仕事ができるような会社にしていきたい」と、夢を持つことの大切さを強調します。



施工例 大滝小学校体育館



施工例 東近江市立真作小学校

施工例 木之本駅前整備事業



本社社屋



特別養護老人ホームやグループホームの運営のほか介護リフォームなども展開している。



奥田ファームでは稲作とトマトのハウス栽培を手掛けている。



グループごとに工夫を凝らして出店する青空夏祭り



夏祭りの収益金は社会福祉協議会に寄付される。



社長以下全社員が福祉施設で奉仕活動を行う「心を高める学習」



長栄座

滋賀県立文化産業交流会館

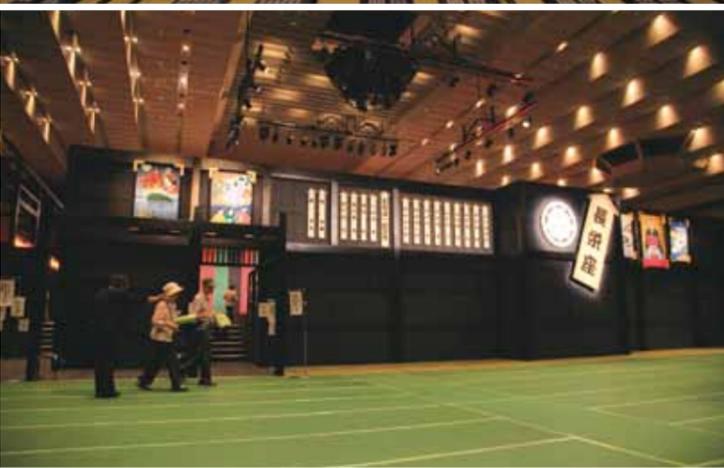
●米原市下多良

復活された明治の芝居小屋

明治16年に現在の長浜市元浜町に開設された「長栄座」は、歌舞伎や大衆演劇、落語などを楽しむ芝居小屋として親しまれていました。戦後は映画館となり、その後火災によって焼失しました。

長栄座のオーナーだった片桐家に残されたわずかな写真と、彦根出身の日本画家上田道三氏が描いた絵や長浜市史、芝居小屋に関する資料などを参考に、舞台美術家の石井みつる氏が図面を描き、シアター・イン・シアターの形で県立文化産業交流会館の中に復活されました。

今年8月にこけら落とし、納涼公演が行われ、人間国宝の常磐津一巴大夫ときわついちほだゆうじ氏による浄瑠璃などが披露されました。公演の行われる時だけ、資材を組み立てて小屋を再現し、終わると解体してステージ下の奈落などに保管できるようにしています。建て込みは2日間かけて、通常2000席のイベントホール内に、



定式幕と提灯、升席が芝居小屋の雰囲気を与えている(写真上)。小屋の正面にはまねきや錦絵が飾られる。(撮影:清水俊洋)

袖間口8間(約14メートル)奥行き657間(10512メートル)の芝居小屋を再現します。大道具で使う箱馬(はこごま)と平台(ひらだい)を用いて床の高さを上げ、そこに本花道と仮花道の2つの花道や、4人が座れる升席を設けるほか、側面には棧敷席を設置します。椅子席も合わせると70席になり、芝居小屋としては大規模なもので、舞台上部や棧敷席の上には提灯が飾られ、舞台には黒柿色、萌黄色の定式(じょうしき)幕が張られます。

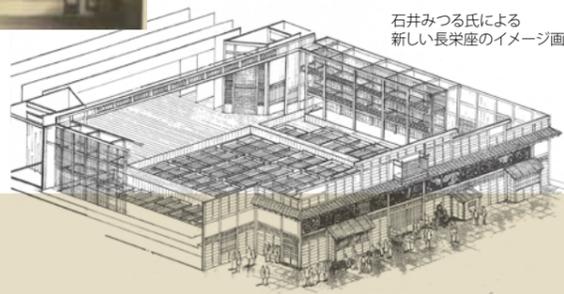
通常のイベントホールの扉を入ると、まねき(演者の名札や錦絵などが掲げられた小屋の正面が再現されていて、芝居の興行が盛んに行われた明治の時代にタイムスリップしたような雰囲気を楽しむことができます。

交流とにぎわいの創出を目指して

長栄座復活事業は、平成23年度文化庁「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」に採択され、(財)滋賀県文化振興事業団が取り組んでいる「滋賀県次世代創造発信事業」の一環として実施されました。長浜や米原の曳山祭りなど、さまざまな伝統芸能が継承されてきた湖北地域の文化的・歴史的背景を活かした事業を展開するために、市民文化の発信基地として親しまれていた芝居小屋を再現することになったものです。芝居小屋という非日常的な空間に集うことで、往時の湖北文化の情緒や市民文化の精神に触れ、さらに希薄になりがちな人と人の交流を再構築し、まちの賑わいを創出することを目指しています。



イベントホール内に升席、花道、棧敷席などを組み立てて小屋が再現される。



石井みつる氏による新しい長栄座のイメージ画

【滋賀県立文化産業交流会館】
米原市下多良2-137
TEL.0749-52-5111
<http://www.shiga-bunshin.or.jp/bunsan/>

仕事の達人、遊びの達人 私のオフタイム

聴く側から演奏する側へ 50歳を過ぎて知った 音楽の楽しさ

株式会社三東工業社 吉田 厚



楽しく練習を続けていきたいという吉田さん

ずっと仕事一筋でしたが、病気を患って仕事を休んだ時から、50歳を過ぎて無趣味というのがなんとも寂しいと思うようになりました。以前から、サクソフの演奏ができればと憧れていたこともあって、昨年、人に勧められて音楽教室のサマースクールを受講しました。初めてアルトサクソフを手にしたにもかかわらず、ちゃんと音がすることに驚き、また先生から「様になってますよ」と言われて、正式にレッスンを受けることにしました。

週1回の個人レッスンでは、基礎練習のほか好きな曲を1曲選んで練習しています。今はジャズの名曲「スターダスト」に挑戦中です。

ジャズとかボサノバとか音楽を聴くのが好きでしたが、自分で演奏してみても、その楽しさにすっかり心を奪われ、ヘタでも演奏する側のほうが俄然楽しいということを実感しました。



大津ジャズフェスティバル <http://otsu-jazz.com/index.html>

冬は車の中で、夏は人家から離れた湖岸などを探して、できるだけ毎日練習しています。なかなか吹けなかった難しいフレーズがある日ひよここと演奏できた時の喜びは何ものにも代え難いものです。

息長く、楽しく練習を続けて、レパートリーを増やしていきたいし、ピアノやドラムの人たちとセッションを楽しめるようになったらと思っています。

また、昨年秋に開催される「大津ジャズフェスティバル」の市民ボランティアとして、イベントの運営をお手伝いしています。出演者も裏方もボランティア、音楽で大津の街ににぎわいを取り戻そうという趣旨に賛同した人々の思いが一つになった手づくりの音楽祭です。

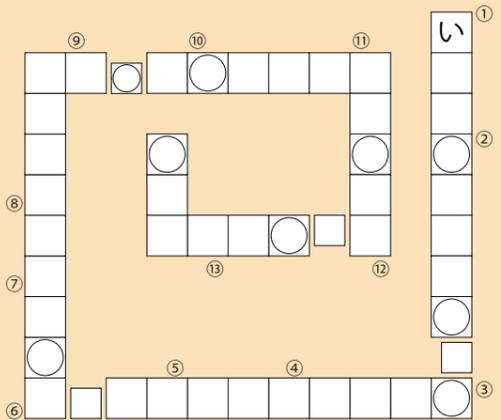
今年は、10月15日(土)と16日(日)の2日間、大津駅前や大津港、旧大津公会堂など、延べ30会場が同時ライブを行います。どの会場もすべて入場無料です。一人でも多くの人にきていただいて、気軽に音楽を楽しんでいただきたいと思っています。



食欲の秋 クイズ

①から順番に食べ物の名前をしりとりを完成させてください。
○の文字を組み合わせると?

ヒント●話題の焦点



- ① 秋の果物の一つ。ジャムにしてもおいしい
- ② 秋を代表する果実入りの餡を皮で包んで焼き上げた和菓子
- ③ 関西発祥の鍋料理
- ④ 薄い皮で餡を包み刀の鑿つばに似せて焼いた和菓子
- ⑤ 棒状に堅焼きしたフランスパン
- ⑥ ラーメンのスープとしておなじみの...
- ⑦ 焼き鳥屋さんの定番メニュー
- ⑧ おでんにつけるソースと辛い香辛料
- ⑨ 体を暖める効果があると注目されています
- ⑩ おでんの具材としても人気があります
- ⑪ 「安倍川もち」と呼ばれることも...
- ⑫ 近江八幡名物、からし酢味噌和えが有名
- ⑬ 長期間漬けた漬物

前号の答え
「かまどベンチ」

パズル&クイズ当選者

- 山崎 泰さん
- 巖島美津子さん
- 澤 和弘さん
- 野崎 春美さん
- 土川真由起さん
- 中村 寿夫さん
- 安井 陽子さん
- 黒川 道雄さん
- 相馬 勉さん
- 佐伯 範夫さん

応募方法

- P&Q及びアンケート(返信用添付ハガキ)の両方にお答えいただいた方の中から抽選により粗品を進呈します。ふるって応募ください。
- 別のハガキにてご応募の方も住所、勤務先(学校名)、氏名及びP&Qの答え、アンケート、メッセージ等を書いて送付してください。
- 締め切り
平成24年1月20日必着
- あて先
〒520-0801
大津市におの浜一丁目1-18
(社)滋賀県建設業協会 広報委員会

V O I C E 読者の声

うまいもの紀行で紹介されていた「ナチャップ」の梨ですが、彦根に嫁いだ娘によるととても甘い梨だそうです。もっとアピールしてほしいものです。(佐次恭子さん)

かまどベンチのことは知っていましたが、今回のような震災時に備えあれば役立つと思います。期待しています。(菅原ひさ子さん)

日本の土木技術は地域とともに成長し、地元のゼネコンやコンサルの技術力が脈々と流れていることを再認識しました。(澤 和弘さん)

家族でさっそくアグリパーク竜王に出かけました。(安井陽子さん)

開設100年を迎えた大戸川発電所。明治42年製の発電機が現役で働いているのには驚きました。高度なメンテナンスをされていると思われます。(相馬 勉さん)

話題の焦点では、トンネル掘削の技術力の高さに驚きました。(野崎春美さん)

道路、橋、トンネルなどの公共事業は無駄の代表のように言われますが、地方にはまだまだ必要とし待ち望んでいる人がたくさんいます。(山崎 泰さん)

写真の専門誌で「夢けんフォトコンテスト」を知り、今回初めて応募しました。ワクワクしています。(武内勇雄さん)

フォトコンテストに応募してから、働く人々の表情や現場を意識的に見るようになりました。(佐伯範夫さん)

けんせつ家族 篠原ユキオ



左から麺1玉の並(280円)、2玉の大(340円)、3玉の特大(400円)

甲賀市水口にある製麺所に併設された谷野(たんの)食堂は昭和29年の創業。古き良き昭和の雰囲気のある建物で、入り口には、「青春の味」の垂れ幕が掲げられています。

店の近くにある甲賀高校(現水口高校)の学生たちに、安価でお腹いっぱいになるメニューをと、先代が考案した「素焼きそばが「スヤキ」のルーツになりました。

その名のとおり、自家製麺にネギとモヤシを加えてラードで焼いた焼きそばで、味付けも薄い塩味のみ。客が自分でウスターソースやコショウ、醤油をかけて味を調整して食べるようになっていきます。ラーメン丼に入っているのも、味付けをしやすいようにとの配慮からでしょうか?

中にはうどんやラーメンを注文してスープに麺を漬けて食べる常連さんもあるそうです。

こんがり焦げて香ばしくなった麺のシンプルな美味しさと、モヤシのシャキシャキが絶妙で、卒業後もこの味を懐かしんで、店を訪れる



自分で味付けをして食べるのがポイント

今年7月に大津市で開催された「滋賀B級グルメバトル」では、2日間で3000食以上を調理したというご主人。



「スヤキ」(甲賀市)



入り口には「青春の味」の幕が掲げられている。



谷野食堂
滋賀県甲賀市水口町城内 8-12
0748-62-2488
11:00 ~ 18:00 定休日 日曜・祝日

After Word

◇秋真っ盛りになりました。『○○○の秋』はいろいろあれども、今は被災地の方々に思いを送りつつ、1日も早い『復興の秋』となって頂きたいと願う今日この頃 ◇先日、『話題の焦点』のコーナーで今や全国的にもブームになっている工場見学の取材に同行して参りました。会社を出る際、女子社員からの「お土産は要りませんよ〜」との「振り」を背中に受けての帰り際、お約束通りお土産を買わなくてはと売店で品定めをしていると、販売員の女性に微かな見覚えが???『ひょっとして! ○○くん!!』との久しぶりの呼ばれ方、相手は高校の同級生で、何と! 25年ぶりの再会に驚きと同時に、一瞬にして学生時代にタイムスリップしたような「懐かしさ」に浸ったおまけ付の取材同行記でした ◇さて、広報委員会独身メンバーのその後ですが、なっ! 何と! 先日、『プロポーズをしてOKを貰った』そして、次の休みに相手方の実家へ行き『ご両親に挨拶に行く』とまさに驚きの急展開... 振り返る事ちょうど1年前、大失恋の報告からよくそここまで... その場に居合わせた他のメンバーは彼から発せられる幸せムードにほのぼのとした心地良い空気に包まれましたとさ。さて、さて、次回の編集後記にはどのような報告があるのやら今から楽しみですv(^o^)



季刊夢けんせつ秋号

◆
2011年(平成23年)10月10日
通巻第621号
発行 社団法人滋賀県建設業協会
〒520-0801 大津市におの浜一丁目1-18
TEL.077-522-3232(代)
FAX.077-522-7743
http://www.yumeken.or.jp
企画編集 広報委員会
協力・印刷 宮川印刷株式会社

近畿建設青年会議所 桑原伝浩会長は、8月6日に高島市の道の駅・藤樹の里あごがわで、「水のない水族館」というイベントを開催しました。琵琶湖条例の施行を記念して7月1日を「びわ湖の日」と定めてから、今年で30周年を迎えたことを記念して開催されたものです。

会場には、琵琶湖に生息する61種の在来魚のフィッシュアートが展示されたほか、アンケートやクイズなどを行って琵琶湖の水質保全を呼びかけました。

また、魚道ブロックなどを採用した環境保全工事や、滋賀県建設青年会議所によるミニ植栽活動など、水質保全や水辺の再生における建設業の取り組みを紹介しました。

イベント会場ではクイズやアンケートを楽しみました。

夢けんひろば

近畿建設青年会議所によるイベント「水のない水族館」を開催しました。



イベント会場ではクイズやアンケートを楽しみました。

社団法人 滋賀県建設業協会
www.yumeken.or.jp

